

〇〇さんの、そこが知りたい!

vol.19

事業主インタビュー第19回目の今回は、ひなたやまデザインの高野理恵子さんです。

飯山市瑞穂地区にて「ひなたやまロッジ」を運営されています。「日常の暮らしを愉しめる場にしたい」そんな理恵子さんの想いで運営されているひなたやまロッジは、一度行ったことのある方はきっとわかるはず。一步足を踏み入れた途端、居心地の良い空間が広がっています。そこでは、みんなの話すスピードもゆっくりになっているように感じます。

春の爽やかな風の中、背景には菜の花畑が広がり、日向山の柔らかい木漏れ日が落ちるロッジにてお話しいただきました。

インタビューは2022年5月12日「ひなたやまロッジ」にて



それぞれの想いを
デザイン
形にしていく……
そんなお手伝いを
していきたい。

「日常の
暮らしを愉しむ」が
コンセプト。



ひなたやま
デザイン





まず、まず理恵子さんの
事業内容を教えてください。

R: はい。私は、コミュニティレンタルスペース「ひなたやまロッジ」を運営している「ひなたやまデザイン」の高野理恵子です。(照笑)

K: いつから始めたんですか？

R: 2020年の5月に開業しました。

K: じゃあ、2周年ということですね。

R: はい、ちょうど2周年…。

「ひなたやま」はこの土地の字名「日向山」からもらいました。屋号を『ひなたやまデザイン』にしたのは、ライフスタイルをデザインしていくことを目指していきかけたからなんです。

で、施設名を「ひなたやまロッジ」にしました。ちょうどコロナ禍と重なったのでオープンがちょっと遅れてしまいましたが…。

K: でも、逆に重なったのは良かったかもしれないですね。そういった需要は増えそうですし。

R: 前向きに捉えるとそうかな～？

実際、ソーシャルディスタンスをとることが常識になりつつあって、初回モニターでのニーズもプライベートのご利用希望のお問い合わせが続いたので、その時その時のお客様のライフスタイルやライフデザインを尊重しながら試行錯誤で進めてきた感じです。

K: そもそも、この施設を管理するようになったきっかけは？

R: その質問よくされます(笑)。確かに、なんで？って思いますよね。

ここは自宅裏に隣接している建物なんですけど、長年空き家だったんですね。元々は(他の方が経営されていた)日帰り温泉施設でしたが、以前の管理者の方がご不在になってから何年も人の出入りがなかった建物で…私も温泉が経営されていた頃を全く知らないんです。でも、この建物が段々と老朽化していく姿を一番間近で見えてきてずっと気になっていたんですね。

そんな時に(我が家がお隣りだからという理由で)ある日突然「高野さん、管理してくれませんか？」ってお声掛けされて…。



小道を歩いて行くと、ほっこりとしたロッジが出迎えてくれます。

K: えー！なるほど。

開業2周年！
ありがとうございます！





いろいろな講座や教室が開催されているひなたやまロッジ。ゆったりと落ちついて、気持ちもリラックスできるとあって、さまざまな人が集います。

R: びっくりでした。もちろん即答するはずもなく、だいぶ時間をかけて家族会議しましたけどね(笑)そこで色々話し合った上で**一大決心**をして(そのままの状態)物件を購入することになったんです。

K: 本当に一大決心ですね。

R: はい。もうその日から生活が一変した感じ…。ただ、初めはここで何かをしたいというより、とにかく**「建物を守りたい」**という気持ちの方が先で…。

現実問題として少子高齢化や人口減少は顕著ですよ。空き家が増えてきたことも他人事には思えなくて…。やっぱり建物も生きているな～って。どんなに立派な建物も使わなければ宝の持ち腐れになってしまう。箱物のままにしているもったいないなって。色々な事情があるにしても、今あるものを無駄にしないで活かしていきたいな～というのが一番の決め手でした。

で、次に「じゃ、ここで何ができるかな～？」となって。自らリノベーションしながら同時進行で構想していった感じです。

「カフェもできるかな？」って夢を描いたり、「宿泊もできるかな？」と色々調べたり…。そんなことをしていく内に、建物の構造的にも資金面でも現実的に条件が身の丈には合わないことを突き付けられて。

2018年は4人目がまだおんぶに抱っここの時期で…。やっぱり家庭や育児を優先して考えたら無理はできなかった。初めから大きいことをするよりも、コツコツと進歩していく方が私には合っているみたいです。

そんな中で**時代のニーズ**に意識を向けたら「レンタルスペースなら幅広い使い方が出来るかも？」って閃いたんです。

K: そっか。時代のニーズ大切ですね。でも、温泉もあるし、部屋もあるんですよ。



R: そう！もともとは企業の保養所として登録されていた日帰り温泉施設だったので温泉も出ます。でも、実際日帰り温泉施設を経営をした場合のシミュレーションもしてみたけれど、今すぐに個人で始める自信がなくて…。長年使われていなかったことで老朽化も進んでいて、ボイラーや水回りを全てメンテナンスするためには負担が大きすぎたんです。

子どももいれば当然**教育費**もかかるから、大きく投資したり、借金までする余裕も勇気もなかった…。**夢と現実とのバランス**っていうのかな？**起業**する上で**「無理をしない」**ということも大切にしようって思ったんですね。

日帰り温泉施設として経営をしなくても**色々な可能性**を築いていける**施設**だと直感的に感じていたので…。



各種教室は毎回楽しそう！





K: それでレンタルスペースにしたんですね。

R: レンタルスペースも、ただ場所をお貸しすることを目的にはしなくなかった。その先の『日常の暮らしに活かせる場』にしたいな～と思って。



実際、ひなたやまロッジは どんな方が利用されていますか？



R: 謙くんみたいな人とか(笑)

(僕は金融関係の講座を何回か開催させていただきました。なにか講座を行う際などにも非常にいい環境です。)

各種教室や講座の会場として定期的にご利用いただいたり、グループでミーティングやワークショップをしたいという方も。撮影スタジオやマッサージなどのサロンとしてのご利用もあります。

食材や道具持ち込みで料理教室を開いたり、家族のお祝いごとやママ友会では市内の飲食店から仕出し弁当をテイクアウトして食事会をされています。最近では、マルシェなどのイベント会場や、会社の研修や学生のゼミの会場として使いたいというお問い合わせもいただきました。

K: それはいいですね！この景色の中。

R: 完全貸切なので他のお客さまがいない分、自分達だけの時間を安心してご利用いただける場所もおすすめしています。泊まりは出来ないけれど、日中に過ごせる場所としてね。

K: 主に利用されるのは、ここら辺の地域の方ですか？

R: そうですね…こういうご時世なので必然的に今は地元の方のご利用が多いです。

K: 野沢の方も多いですもんね。

R: そうそう！野沢や木島平からも車ですぐの好立地



ロッジの中はアットホームな雰囲気



なので。野沢の方はご利用率高め！自転車でも来られる人もいますよ！

K: 反応はどうですか？

R: 飯山の人でもそうですが、特に近隣市町村の方からは「飯山に新たな居場所ができて嬉しい」って言うてもらっているのでこちらも嬉しいですね。

K: 広げたいですね。初めて来たお客さんの顔を見ると、感激していますもん。ここで話していると、みんな会話のペースがゆっくりになるような気がします。心が落ち着いているんだと思います。

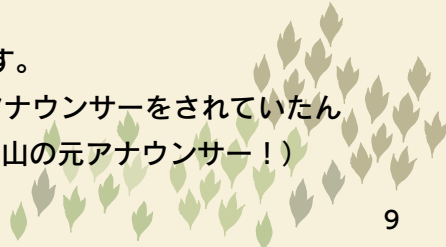
R: そうですか？それは嬉しいな～。

特に、この瑞穂地区は菜の花公園や福島新田の棚田、神戸の大イチョウ、小菅神社、北竜湖、伝統的工芸品の内山紙など自然環境や歴史文化も色濃い地域なので、微力でも連携させていったら回遊性ある地域づくりの一助にもなるかな？って思っています。非日常を感じる場というより日常にしていきたい。生活の一部になったらいいな～と。

いずれは、敷地内にキャンプサイトやサウナも設営したいな～と夢も描いています。(一緒に作ってくれる人も募集して…)

K: いいですね、楽しみです。

あつ、理恵子さんは、アナウンサーをされていたんですね？(iネット飯山の元アナウンサー！)



R: お恥ずかしい限りです…(照笑)。

大学卒業後の2002年に開局と同時に地元のケーブルテレビに就職してアナウンサーと撮影、編集の仕事に携わりました。伝える仕事は難しいけどやりがいがありました。老若男女色々な方との出逢いや繋がりの中で貴重な経験を沢山させてもらって。とにかく人も風土も魅力がいっぱい！仕事を通じて、自分が育ったふるさと飯山にどんどん魅了されていった感じです。

K: それが今に繋がっているんですね。

R: はい。その後、2008年に結婚を機に退職して、その2年後に長男を授かりました。そこからはもう子育て…とにかく**30代は出産、育児で無我夢中**でした！会社員の夫も忙しい日々で宿直でなかなか帰って来られない日も続いたのでほぼワンオペ状態(笑)。自分のキャパオーバーで小さい子ども達と一緒に泣いた日もあったな～。
今となれば懐かしいけど…本当、自分で自分を褒めたいです(笑)

K: 4人ですからね。



R: はい、賑やかです(笑)。

子育てをしながら仕事を頑張っている人も沢山いるけれど、本当に尊敬します。私はあれもこれもできないタイプで…。
両立の難しさも同時に感じました。育児は周りの方の支えがあってこそですね。だから…まずは日頃の生活に集中しながら、出来ることを少しずつやっていこうという頭だったので、当時は事業を興そう！とか、これをやってやるぞ！みたいなそこまでの意気込みはなくて…。

K: 色んなタイミングですね。

R: そう、タイミング。身の丈を大切にしてお縁に乗って来た感じです。



テレビアナウンサー時代



スノーシューで裏山探検



大イチョウまでの小道。理恵子さんも子どもたちも大好きな道なのだからか。



🌿 「自分でやってみよう」というのは**大きな決断だったと思うのですが、最終的に決め手になったことはありますか？**



R: そうですね。やっぱり「**家族の支え**」が一番かな…。
夫の**理解や協力は大きい**。両親や祖父母からもらった言葉も支えになっています。

K: やっぱり、そういった言葉の影響って、その後の人生にかなり大きく影響するんですね。

R: そうですね。言葉によって背中を押してもらったことはあるね。

K: 以前「五分五分」の話もしていただきましたけれども。だから、そういうのをすごく大事にされる方なんだな、とその時も思いました。(以前、理恵子さんのFacebookで「『五分五分を忘れずに！』が父の教え」という投稿があり、僕がちょうどその時に読んでいた本とリンクしたので、ちょっとした素敵なやりとりがあった)



R: あ〜、「五分五分」はね、父の口癖で。いつも「お互い様」を大切にするんだぞって…。

K: でも…凄いですよね。それが口癖になっている方って、なかなかいらっしやらない気がしますね。

R: 私の父は単身赴任生活が長かったんですね。離れて生活していたから電話で相談することも多くて…。

例えば人間関係で悩んだ時に「どちらがいいとか悪いとか、正しいとか正しくないとか、そういう判断基準じゃなくて、相手がどう思うか？自分がどう思うか？常にお互いの五分五分为大切にしない」って言われたんです。そう…。

K: 謙虚だし、色んなことに感謝されている方なんですネ。

R: そうですね。五分五分って相手を受け入れる優しさを感じます。母もそうだけど、そうやってお互いを思いやる中で育ててもらったので両親には本当に感謝していますし、お互い様の想いが事業にも役立っているのかなって思います。



▶ ちょっと話が変わりまして、「高野家の生活」が全て素晴らしすぎるんですけど、何か普段から意識されてることってありますか？

R: あのね！すごい分厚いフィルターかけて見えますよ(笑)

K: いや、間違いはないですよ。

R: それはだいぶ褒めすぎです(笑)

K: 本当に。何かあるんですか？もう、お話のような素敵な暮らしだから。



R: いやいや、そんなことないって〜。「自然体」なだけですよ。

K: お〜。確かに！こういう環境もそうさせるのかなあ。お子さん達も兄弟でモノを作ったり、絵を描いたり。というか、恐竜、めっちゃ凄いですし！



インスタで紹介されている子どもさんの「恐竜製作」の様子。いや、お見事！

R: 恐竜ね〜。子ども達の興味・関心は私たち親にとっては全く未知の世界であることがほとんどです。自主的に動いている子ども達をそっと見守っている感じですよ。「あ、この子はそういうことが好きなんだな〜」、「こういうことに興味を持つ子なんだな〜」って。だから、四人四様！ひとりひとりの個性を大切にしたいな〜って意識はしていますけど。

逆に子ども達から教わったり、育ててもらっているような感覚です。

K: なるほど〜。



子どもたちと過ごす時間も大事にされている理恵子さん。よく一緒に沢など、自然いっぱいの場所にしかけるそうです。





理恵子さんの休日は？

R: 私の休日ですか？休日といっても家のことで1日が終わってしまうことがほとんどだけど、ひとりでの休日は、思いっきり自分時間を楽しむようにしています(笑)。

読みたかった本を読んだり、映画やドラマを視聴することもあるし…。飯山をめぐって季節の写真を撮ることも好き。料理をつくることも食べることも大好きだから一日中台所にいることも…。

あとは、隙間時間を利用して(社協のボランティアで)近所のお年寄りのお宅に掃除や買い物などのお手伝いにも行っています。家族一緒の休日は、山歩きなど自然の中へみんなで出かけることが多いかな～。

K: おお、充実してますね。この辺もハイキング出来るコースはあるんですか？

R: ありますよ！今度歩きます？菜の花公園は春だけでなく春夏秋冬散策コースとしておすすめですし、このすぐ下に小径があって、そこを歩くと長野県の天然記念物の神戸の大イチョウまで行けます。そこから風切峠に抜ける道もあって小菅～野沢まで繋がっているんですよ。

K: へ～。そこまで行けちゃうんですね。

R: 冬はスキーで行ったり、スノーシューを履いて出かけてみたり。玄関出たら遊び場です。

K: 同じ飯山でもちょっと中心地から外れればこれだけ自然を味わえるっていう。

R: そうそう、飯山や野沢温泉って、本当にこの近隣だけで日帰り旅が叶っちゃう。遠出しなくても充分満たされるんですよ(笑)いい環境だなあ～って本当につくづく思います。



では最後に。「これからのひなたやまデザイン」をお願いします

R: はい！今まで通り「日常の暮らしを楽しむ」ことをコンセプトに、ひなたやまロッジという場と空間を活用してもらい、それぞれの想いを形に(デザイン)していくお手伝いをしていきたいと思っています。特に、この地域にはインドア、アウトドア共に優れた才能の方が多いですよ。そういう人達が、教える立場としてアウトプットする講座や教室、ワークショップなどで活躍できる機会をどんどん増やしていきたいと思っていますし、私自身も飯山での楽しい暮らし方を紹介していきたいと思っています。

あと、書道師範の母の影響で私は文字を書くことも大好きなんですけど、ここのところ熨斗や年賀状の宛名書きなどの筆耕業を頼まれることも増えて、手書きの温もりや良さを改めて感じています。

やりがいもあるので、私なりに文字をデザインする取り組みもしていこうと思っています。

何より、ひなたやまロッジを訪れてくださる皆さんが、心豊かに健やかに笑顔になれるきっかけをこれからも生み出していきたいです。



ひなたやまロッジで 開催中の【定期講座】

おとなのための 書き方教室



ひなたやまロッジでは、現在週1回、「おとなのための書き方教室」を開催しています。

この教室では、「宛名書き」や「お手紙」、冠婚葬祭時の氏名書きなど、日常よく使う場面での書き方を中心に学んでいきます。講師は、書道教室を開校されている沼田

光苑先生。個別で優しく丁寧に教えてくださいます。ご興味のある方はぜひおたずねください。



また、教室や講座・ワークショップを開きたい講師の方、インストラクターの方のご相談にも随時応じています。詳しくは、お問合せください。



【インタビューを終えて……】



初めて理恵子さんとお会いした時から「理恵子さんの周りっていつも空気が澄んでるんだよな～」と感じてなりません。声、表情、仕草…そんな所から?そして、そんな空気が〈ひなたやまロッジ〉にも漂っているのです。

「時間の流れに乗って」「自然体」。今、目の前にあること、自分の置かれている状況、そこで出会う人々…。そういったものをとても大切に、丁寧に向き合う理恵子さんだから、そんな空気を感じるのかな…と、今回のインタビューでわかった気がします。

心が整っているから。

「暮らしを愉しむ」というひなたやまデザインのコンセプトは、日々のささやかなことにこそ幸せがあるのだということを再認識させてくれる、理恵子さんの人間性が滲み出たものでした。

この地域での生活がますます楽しく、かけがえのないものになりそうです。

理恵子さん、ありがとうございました。

今後とも家族ぐるみでよろしくお願ひします!

ひなたやまロッジ

ひなたやまデザイン

〒389-2321 飯山市瑞穂2715-6

KEN TIMESをご覧のあなたに、
プレゼントです!!!



スペシャルクーポン

初回ロッジをご利用の方

1,000円 OFF

(スペース利用料:1時間分サービス)

期限:2022年12月31日

Instagramフォローも
よろしくお願いします!!

みなさまのお越しを
お待ちしております!!



<https://hinatayamadesign.com>



バックナンバー

ご契約者のインタビュー

河野謙のホームページでご覧いただけます

ご契約者の中で「野沢・飯山をメインに事業を行なっている方」に向けてインタビューをさせてもらっています。お客さま同士ががり合い、「地元がより盛り上がっていったらいいな〜」と思っています。



「ぼっぼ動物病院」
松川 恵さん



「有限会社 丸見屋商店」
河野 晃久さん



「リラクゼーションNemu」
福澤 美里さん



「nozowa green field」
河野 健児さん



「やよい農園」
滝沢 弥生さん



「and sugar」
高坂 沙也香さん



「ambis」
福澤 龍一さん



「翻訳家」
辛島・ジェニファー・フランセスさん



「POWERDRIVE R117」
庚 敏久さん



「BODY CARE SALON WISH」
白石 里香子さん



「タイコア合同会社」
ロビンソン・ガードナーさん
奈津子さん



「山本園」
山本 亮介さん
愛さん



「野沢出張マッサージ
サオリセラピー」
齊藤 沙織さん



「Paint Up Sugar」
佐藤 亮一さん



「タイ料理 クアタイ」
市川 良樹さん
史さん



「ひぐらし農場」
木内 晴基さん
(妹) マミさん



「合同会社
MonkeyBusinessCO.」
中嶋 サマンサさん



「Snowboarder's base
NEO BAR」
牧野 千尋さん



「ひなたやまデザイン」
高野 理恵子さん

河野謙のホームページ ▶ <https://konoken.com>



皆さんのインタビュー
バックナンバーは、
↑ホームページから
ご覧くださいね！